

地域活性化特集

観光立市・那須塩原のかじ取り

インタビュー



栃木県那須塩原市長

きみじま ひろし
君島 寛さん

観光は市政の柱の一つ 日本遺産登録も視野 観光局は来春に法人化を

「世界遺産がある日光や那須高原などに比べ、まだまだ知名度は低いと認識している。宿泊施設のキャパシティを比較してもかなわないところではあるが、わが市の温泉地は小規模な旅館が多く、古き良き日本の温泉情緒を残している。これは強みでもある。アピールいかにでは集客の決め手となる。先ほど触れたが、泉質や食、自然景観など他と比べても負けない資源を備えていると思っている。また、東京から新幹線で約70分、東北縦貫道で東京から2時間圏というアクセスの良さも他にはない魅力だ。おっしゃる通りPRは十分ではない、もっと力を入れなければならない。」

1971年4月黒磯市職員として採用。那須塩原市総務部長兼黒磯支所長・企画部長、副市長を経て、2016年1月から現職。旧黒磯市出身、68歳。座右の銘は「意思あるところ道は開ける」。

「昨年春に那須塩原市観光局を立ち上げ、それまでの内向きのプロモーションから外向きのプロモーションにシフトしてきた。16年度からは、プロモーションは継続しつつも来たいだいた観光客の満足度を上げるための観光地としての質の向上の取り組みにより重きを置いていく」としている。栃木県観光局「D」が18年春に開催されることが決まったが、Dはこういった市の取り組みを後押しし、加速させるいい機会と捉えているので、この機会を逃さずに重点的に活用していきたいと考えている。

「最近では政府の後押しもあってDMO（観光地づくり推進法人）に対する関心が高まってます。局の将来像については、まず、来年度からの法人化を目指し、同時に、塩原温泉観光協会を既存の協会の一体化を図る。17年度は市の観光戦略にとって大きな節目となるだろう。」

「旅館・ホテルなど観光業者が期待するのは、16年度は来たいだいた観光客の満足度を上げるため、観光地としての質の向上に取り組み、より重きを置いていくという話でしたが、また来たかと思ってしまうためには旅館・ホテルなどの個々の施設の品質管理がとても重要になってくる。具体的に清潔で心のこもったサービスの提供はもちろん、プラスαの独自のサービスによる自社の強みの磨き上げなどだ。そうすることで観光地全体のレベルアップにつながる。」

「逆にいえば、品質の低下はそのまま地域の評判を落とすことになる。地域の一員として皆が一体となって満足度を上げていくために取り組んでいたことを期待している。業界の皆さんと膝を突き合わせて意見交換することの大切さは理解しており、互いに努力して市の観光振興に努めたい。」

「市長のご趣味は何でしょうか。」

「体を動かすことが好きで、スキーやゴルフなどいろんなスポーツをやったが、一番は野球かな。高校時代はキャッチャーをやっていた。軟式の審判も40年以上やっていた。高校野球が好きで、甲子園に何度も足を運んだ経験がある。」

「旅行は、好きたね。特にドライブ旅行が好きで、友人とあちこちに出かけたものだ。」

「最後に市長の政治信条をお聞かせください。」

「市長選にあたり、市民の皆さんに三つの約束をした。一つは市民優先の行政、二つ目は国・県・市町村との連携、三つ目は公平で公正な市政運営。この約束を誠実に実行していく。」

「昨年12月の任期満了に伴う栃木県の那須塩原市長選で、元副市長の新人、君島寛氏（68）が初当選した。塩原、板室の二大温泉地を核に観光立市の歩みを強める同市だが、新市長はどんな観光施策を展開していくのか、率直な考えを聞いた。聞き手は観光経済新聞社編集長内井高弘（市長室で）」

（市産業観光部政策審議室・那須塩原市観光局長）を迎え、「目指すべきまっすぐな体系として五つの柱を掲げており、その一つに『元気な那須塩原市』というのがある。まちが活気に満ち溢れるためにはそこに住む人々が元気なだけでなく、経済や教育といった人々の生活基盤そのものが元気である必要がある。観光振興はそれを実現するための重要な施策と考えている。」

「市の基幹産業は観光と農業だが、観光産業は裾野が広く、ここが元気になれば雇用も生まれ、市の経済も活性化します。3年ほど前に本々、観光振興はそれを実現するための重要な施策と考えている。」

「日本は人口減少、少子高齢化という大きな課題を抱えているが市も例外ではない。そのため、定住促進の取り組みも行っている。住んでもらうには、まず知ってもらうことが、行ってみたいと思ってもらうこと、そして来てもらうこと。その意味で、観光で多くの人が来てもらうことは定住促進にも大きく寄与することになる。」

「年間観光予算はどのくらいですか。」

「全体では4億6千万円ほどだ。市長就任後、各部の予算を見直し、局の予算も少し減額したが、観光予算そのもののについては増額を考えている。必要なものに投資しないと観光地間の競争には勝てない。」

「市の観光魅力をどう捉えていますか。」

「塩原、板室両温泉を中心とした温泉地や、那須野が原開拓に関わる明治の元勲の歴史の遺産など、多くの観光資源に恵まれている。特に、日本三大硫黄の一つである『那須硫黄』や華族が経営した大規模農場『華族農場』などは明治開拓史としても非常に貴重なものだと思う。広く知っていただく必要がある。そのため、近隣市町と連携して日本遺産の登録をしたいと考えている。」

「ある調査によると、旅行の楽しみは1位が温泉入浴、2位はおいしいものを食べる、3位は文化的な名所見物、4位は自然景観を見ることとなっている。市には泉質や効能、色も多彩な塩原温泉郷、下野の薬湯と呼ばれる、その効能などから国民保養温泉地として環境省から指定されている板室温泉といった歴史ある温泉地がある。」

「食の面でいえば、生乳生産本州」という特色を生かした、新鮮でおいしい乳製品がある。その他、塩原高原大根やスーパ入り焼きそばなど挙げるときりがない（笑）。さらに、ショッピングに最適な那須ガーデニアウトレット、ウィンタースポーツ、カナート、スキー＆スノーボードの体験などアウトドアも盛んだ。」

「周辺には日光など有名な観光地も少なくありません。もっとアピールする必要があると思います。」



温泉の宝石箱

塩原温泉

塩原温泉は1200年以上の歴史を持ち、湯量豊富で景観の良い温泉地として栄えてきた。半径5キロ以内には50もの源泉があり、毎分1万リットルの湯が湧出している。特筆すべきは、10種類ある温泉の泉質のうち、実に6種類は泉質が揃う、全国的にも珍しい温泉地ということ。具体的に単純温泉、炭酸水素塩泉、硫酸泉、塩化物泉、硫酸泉、酸性泉の六つ。三大美人泉質（炭酸水素塩泉、硫酸泉、硫酸泉）が一つの温泉地にあり、ほとんどが宿が温泉水1000リットル以上、メタケイ酸50リットル以上の美肌の湯。しかもうち9割が100リットル以上という。メタケイ酸は温泉に含まれている天然の保湿成分で、肌の新陳代謝を促進してツルツル美肌にする。50リットル以上は美肌の湯といわれ、100リットル以上は美肌形成の湯といわれており、女性にとっては何となくうれしい温泉だ。

塩原温泉はまた、七色温泉でもある。乳白色、黒色、薄墨色、透明、緑白色、黄金色、茶褐色があり、その日の気分で好きな色の温泉を楽しむのもいい。まさに「温泉の宝石箱」だ。

どうして色がつくのかというと、源泉から湧き立ての湯は基本的には無色透明なのだが、透明な温泉が浴槽に入ると、時に酸化することで、含まれている成分の分子が大きくなり、その成分に応じた光の乱反射によりさまざまな「色つき温泉」になる。

好みの色選んで入浴！

緑白色



黄金色



茶褐色



黒色



薄墨色



透明



乳白色



地域活性化特集

塩原・板室両温泉の魅力

座談会

栃木県那須塩原市が観光振興に熱心だ。昨年4月に観光局を開設し、積極的な観光プロモーションや四季折々のイベント実施などに拍車がかかる。その甲斐あってか「にっぽんの温泉100選」（観光経済新聞社）のランクも徐々にながらっている。市の観光をリードする4氏にお集まりいただき、今後の展望を語っていただいた。同会は編集長内井昌也（関谷にある観光局で）。

——旅館の特徴は。

君島 将 光荘荘は客室数25で、宿泊料金は1万円〜2万円です。平均的な旅館ですが、でも温泉は違います。毎分200リットルの自家源泉を持っており、お湯はメタケイ酸が基準の含有量の6倍も入っています。保湿効果抜群で、美谷にとても効果があります。

——セルスポイントにはやはり温泉で、塩原最大級の露天風呂、飲泉、足湯あり、とメニューをそろえています。夏場などは首都圏のファミリー層が中心ですが、年間を通してみると地元客が多いですね。料理は地産地消の食材を出すよう心がけています。樽に焼けた石を入れて沸騰させる石焼料理などが特徴です。

室井 孝幸 板室温泉は「下野の薬湯」として親しまれるいわゆる湯治場、いまでも昔懐かしい雰囲気を残しています。勝風館は家族経営で、客室16の小さな旅館です。基本料金1泊1万円ですが、正月三が日は全日同じです。また、滞在日数が長くなるほど料金は安くなります。

昔は2万円、3万円と長逗留するお客さまがいましたが、最近は長くても1万円ぐらいいなくなっています。同じメニューは出せないで、特に朝食には頭を悩ませています（笑）。1週間に一度かわりご飯」と称しておかわり炊き込みご飯を出して、当館の名物料理となっています。私以外の家族全員が調理師の免許を持っているというのも特徴です。

君島 理 江戸時代創業の古い旅館で、川岸露天風呂で知られる明賀屋本館と、10年ほど前に建てた「彩つむぎ」の2軒を経営しています。2軒合わせて5つの源泉を持ち、計10種類のお風呂を楽しむめます。宿泊料金は1万円〜2万5千円です。

彩つむぎの特徴の一つは、障子をお持ちの方やご年配のお客さまが過ごしやすいようバリアフリー対応になっていることです。「ちきんにやさしい条例」にも適合しています。車椅子で利用できる部屋は2部屋用意しています。ご夫婦共に車椅子利用、1泊2客さまが大変喜び、リピーターになつて下さっています。食事については地場、旬の食材にこだわっています。——昨年4月に「那須塩原



塩原温泉観光協会会長 君島 将介さん（光雲荘）



那須塩原市観光局長 木下 昭彦さん（市産業観光部政策審議監）

良質な温泉を全面に 50〜100年後見据えて

君島(将)さん

木下さん

桃の植栽など四季折々をテーマにしたイベント、事業を手掛けています。

——観光局ができたことで何か変化は感じていますか。

君島(将) 観光局の戦略会議などに出させていたたいので、何をしようとしているのか分かりますが、末端というか、一般の旅館・ホテル経営者まで浸透しているかどうかは難しいところですね。

室井 従来は市のプロモーションに便乗するぐらいで、板室温泉の旅館・ホテルが一体となって積極的にセールスするとかはあまりなかった。木下さんが来てから「知名度を上げよう」「本気になって動こう」という雰囲気が出てきて、意識の変化が生まれたように思います。板室には旅館が10数軒しかありませんが、8割ほどの旅館がそう考えた賛同しています。品質管理についても、これまでは特産である牛乳をただ単に

お出ししていたが、最近はアレンジして出すといった具合に考えが変わってきました。「にっぽんの温泉100選」にランクインしたためか、板室に初めて来たというお客さまが増えています。その方からどう再訪してもらおうか、大事なことです。そのためにお客さまとのコミュニケーションを深め、例えば「先々こんなイベントがありますよ」「今年の紅葉は11月頃が見頃ですよ」といった情報を提供すればいいのではないかと、という話題も出るようになってきています。「温泉文化、生活文化、そして芸術文化を味わう。板室温泉」を新しいコンセプトとして板室温泉を進化していくと歩み出しています。

君島(理) 観光協会や旅館組合、そのなかにも女将の会や青年部があり、他に商工会、市の商工観光課、そして観光局と、組織がたくさんあります。当初、どこか意見が聞けないのか戸惑いもありましたが、少しずつ改善しています。

が残念ですね（笑）。——50年後、100年後にの温泉地をどうするか、したいのかというのが一番重要なテーマです。人口減のなかで、今後淘汰される温泉地が出てくるでしょう。塩原、板室がそうならないよう、先々の議論する場に観光局であり、戦略会議だと思えます。全ての旅館さんに理解していただくかという。それは仕方ないかな。時間を経ながら1人、2人と増えればいいのかと考えています。要は「自分たちの問題」です（よ）というところ。

君島(将) やはり温泉です。10種類ある温泉の泉質のうち、塩原温泉には実に6種類の泉質がある。一つのエリアにこれだけの泉質があるのがまさにセルスポイントになる。当たり前ですが、そうした変化に対応することが求められています。

木下 それぞれのお立場で魅力を語っていただいた訳ですが、残念ながらほとんどマレーットに知られていない。現実があります。温泉、自然、観光施設など素晴らしいものは本当にたくさんあるにも関わらずです。そこを突

「湯治場」プラスαを 地理的良さを生かす

君島(理)さん

室井さん

き話してほしいですね。自己満足から顧客満足に「自分たちが知っているから、皆が知っている」という具合に変えていく必要がある。例えば、塩原、板室のヒックは紅葉時期ですが、では春や夏の塩原には一体何があるのかというところです。その情報をマレーットに十分に発信できていませんでした。

君島(将) 自分たちなりにアピールしてはいると思うのですが、すれていたところがある。——木下 過渡期だったと思います。少し前まではエッジエントさへ押さえておけば一定の集客ができたのですが、インターネットの普及でその

室井 孝幸 さん 板室温泉旅館組合会長（勝風館）

君島 理恵 さん 塩原温泉女将の会会長（彩つむぎ）



構図も変わり、エンドユーザーにどう訴えるかも重要になってきました。その意味では、ちょっと対応が遅れたといえる。那須塩原だけの話ではありませんが。

室井 私が子供の頃、昭和40年代には満ち溢れに人が集まっていた。朝から下駄の音が鳴り響き、夜遅くまで大が騒いでいる。それが段々と人が少なくなり、温泉街が寂れてきてしまった。良い時も悪い時も知っていた最後の世代なのか、このままではいけないと言っている感じがしますね。自分

君島(理) 私は塩原に来て25年です。室井さんがおっしゃったような出来事は経験していません。昔は布団部屋までお客さまが泊まっていた。と聞いてもピンと来ません。来たる当初はとてもいびりし

君島(将) アクセスも良くて、ある程度知名度もあったので、父の世代は何もなかった。でもお客さまが来てくれた。うです。だからプロモーションにも熱が入らない。いい時代だったということです。

木下 できることから始めようというところで、先ほども触れましたが、花桃の植栽でもまち並みを飾るというような試みを実施しています。後は2次交通網の整備ですね。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい

木下 東武スカイツリーライン浅草駅から会津田島駅ま

君島(理) 現在、新幹線駅からダイレクトで塩原温泉まで入ってくるバスが塩原内の全ての地区まで行っていないので、それが実現できれば利便性が各段に高まります。

室井 商店の空き店舗や休業した旅館がそのまま残っています。これは印象も良くありません。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

君島(将) 交通網の整備ですが、日光と那須塩原をつなぐ路線があればいいですね。お客さまも喜ばれ、私どもにとってもセルスポイントの一つになるのではないかと思っています。那須塩原、板室温泉、那須塩原を結ぶ周遊バスがある。住民もそこは分かっています。必要はあると思いますが、現実的には難しいと思います。女性目線で見ると、バスが90%ほどはワンマン、公共交通機関にシフトしています。新幹線が東京から1時間で行けることを売りにして、来る観光客として、そこから先の足の確保ができていないというところは非常に多い。ないことです。新幹線は1時間以内。そこに接続させるのはすごく難しいことではないと思います。「足はちゃんと用意してありますよ」というだけのお客さまは安心して来てくれる。そうすればPRの仕方に幅が出てきます。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい

と話を交わらぬりしてしまいがちです。例えば、大正天皇の御用邸があった跡地が空き地になってしまっている。そこをどうにかしようという話になると、「復元しろ」「いや別な建物にしろ」という議論になります。では何のために復元するのか、何のために別の建物を作るのかという視点が抜けている。

君島(理) あの温泉地は〇〇をやった客が増えた。われわれもやる。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

室井 商店の空き店舗や休業した旅館がそのまま残っています。これは印象も良くありません。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

君島(将) アクセスも良くて、ある程度知名度もあったので、父の世代は何もなかった。でもお客さまが来てくれた。うです。だからプロモーションにも熱が入らない。いい時代だったということです。

木下 できることから始めようというところで、先ほども触れましたが、花桃の植栽でもまち並みを飾るというような試みを実施しています。後は2次交通網の整備ですね。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい

木下 東武スカイツリーライン浅草駅から会津田島駅ま

君島(理) 現在、新幹線駅からダイレクトで塩原温泉まで入ってくるバスが塩原内の全ての地区まで行っていないので、それが実現できれば利便性が各段に高まります。

室井 商店の空き店舗や休業した旅館がそのまま残っています。これは印象も良くありません。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

君島(将) 交通網の整備ですが、日光と那須塩原をつなぐ路線があればいいですね。お客さまも喜ばれ、私どもにとってもセルスポイントの一つになるのではないかと思っています。那須塩原、板室温泉、那須塩原を結ぶ周遊バスがある。住民もそこは分かっています。必要はあると思いますが、現実的には難しいと思います。女性目線で見ると、バスが90%ほどはワンマン、公共交通機関にシフトしています。新幹線が東京から1時間で行けることを売りにして、来る観光客として、そこから先の足の確保ができていないというところは非常に多い。ないことです。新幹線は1時間以内。そこに接続させるのはすごく難しいことではないと思います。「足はちゃんと用意してありますよ」というだけのお客さまは安心して来てくれる。そうすればPRの仕方に幅が出てきます。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい

と話を交わらぬりしてしまいがちです。例えば、大正天皇の御用邸があった跡地が空き地になってしまっている。そこをどうにかしようという話になると、「復元しろ」「いや別な建物にしろ」という議論になります。では何のために復元するのか、何のために別の建物を作るのかという視点が抜けている。

君島(理) あの温泉地は〇〇をやった客が増えた。われわれもやる。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

室井 商店の空き店舗や休業した旅館がそのまま残っています。これは印象も良くありません。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

君島(将) アクセスも良くて、ある程度知名度もあったので、父の世代は何もなかった。でもお客さまが来てくれた。うです。だからプロモーションにも熱が入らない。いい時代だったということです。

木下 できることから始めようというところで、先ほども触れましたが、花桃の植栽でもまち並みを飾るというような試みを実施しています。後は2次交通網の整備ですね。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい

木下 東武スカイツリーライン浅草駅から会津田島駅ま

君島(理) 現在、新幹線駅からダイレクトで塩原温泉まで入ってくるバスが塩原内の全ての地区まで行っていないので、それが実現できれば利便性が各段に高まります。

室井 商店の空き店舗や休業した旅館がそのまま残っています。これは印象も良くありません。若い人がカフェをやりたい、飲食店をやりたいという人もいますので、うまく活用できないか、地主さんらと交渉していただければいいと思います。

君島(将) 交通網の整備ですが、日光と那須塩原をつなぐ路線があればいいですね。お客さまも喜ばれ、私どもにとってもセルスポイントの一つになるのではないかと思っています。那須塩原、板室温泉、那須塩原を結ぶ周遊バスがある。住民もそこは分かっています。必要はあると思いますが、現実的には難しいと思います。女性目線で見ると、バスが90%ほどはワンマン、公共交通機関にシフトしています。新幹線が東京から1時間で行けることを売りにして、来る観光客として、そこから先の足の確保ができていないというところは非常に多い。ないことです。新幹線は1時間以内。そこに接続させるのはすごく難しいことではないと思います。「足はちゃんと用意してありますよ」というだけのお客さまは安心して来てくれる。そうすればPRの仕方に幅が出てきます。

室井 新幹線駅が寂しすぎる。送迎の際「皆さんどこで買い物や食事をしてるのですか」と言われるのが笑いの。新幹線駅を利用する人の4割がサリーマンで、6割が観光客といわれています。お出迎える玄関口になるのだからもうちょっと何とかしてほしい



板室温泉神社



笹岩地蔵



木の俣地蔵

板室温泉

板室温泉はパワースポットがある。この地に古くから伝わる三つの祈願所、「板室温泉神社」「笹岩地蔵」「木の俣地蔵」。

板室温泉神社は関節炎や神経痛に利益があるといわれている。板室温泉は「杖いらずの湯」ともいわれ、湯治のおかげで不要になった杖が多数奉納されている。毎年10月8日が神社例祭。

笹岩神社は、湯治に訪れた昔人が病全快のお礼にと、いつからともなく地蔵様を寄進したのが始まり。この地蔵は乳がんが治癒したことのお礼で、左胸を表した山の神の石像とも伝えられている。東日本大震災以降、直接お参りはできないが、薬湯として名高い板室温泉のパワースポットで、乳がんにご利益があると評判が高まっている。毎年8月8日が神社例祭。

パワースポット 三大祈願祭

女子宝祈願の地蔵尊として多くの参詣人を集めた。現在は

この桂の巨木（推定樹齢500年）は「ごちぎ名木百選」

の1つに定められている。毎年4月24日が地蔵例祭。板室温泉ではこの三大祈願所で祈願されたお札を、1月から4月の1カ月ごとに宿泊施設内の温泉湯口に供えし、その全てのお札をお焚き上げする「三矢祈願祭」を今年から始めた。今後、春の風物詩として定着しよう。